

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局：大代地区公民館 ☎ 364-8442

あいさつは心のふれあい 出会った人と あいさつしましょう

「公民館まつり」を終えて

大代地区公民館まつり実行委員長 小野 菊郎

今年の大代地区公民館まつりは、「つどい・まなぶ・むすぶ」のテーマのもとに、地域の皆様のご協力をいただき、盛会裡に終了することができました。

当日は、心配された天候にも恵まれて例年以上の来場者があり、日頃から公民館で活動している各教室、講座、グループ及びサークル等の三十五団体の方々が参加し、これまで取り組んできた活動の成果を発表しました。

来場者の皆様からは、各展示物はもとより、舞台発表などの技術・技能などにレベルが高いとの評価をいただくことができました。講師の先生方の献身的なご指導の賜物と心から感謝申し上げます。また、大代地区子ども会育成連合会の皆様からご協力をいただいた出店には、予想を上回るお客さんで大いに賑わい、恒例となりましたチャリティ募金は、今年も市社会福祉協議会に寄付することができました。

私達は、これからも公民館に集い、学び、また、地域の団体・グループ・サークル等の自主活動の拠点として大いに活用し、地域の多くの方々との交流を深め、活動の輪を広げてまいりたいと存じますので、今後とも、公民館活動に深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご祝儀 お見舞いは 三千円を限度にし お返し物はしなないようにお互い気を配りましょう

卯月の大代

大代西 佐藤 甚六

異常に寒さの長かった三月にもおさらばをして、陽射しがまぶしく、肌さす陽春がやってきました。四月一日と言えば、昔は小学校の始業式でした。大代の子供たちは、多賀城尋常高等小学校（現在の多賀城小学校）まで、約三キロメートルの道のりを三さん五ご通学しました。

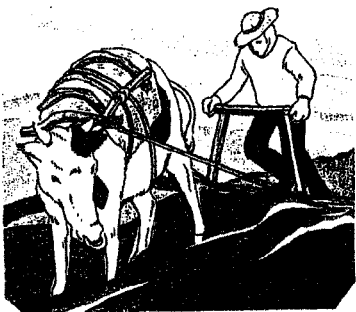
当時は荷馬車が主で車の往来は殆どなく、交通事故やヒツタクリ等、今考えられる事故などはなかったようでした。

灌仏会 花祭り (釈迦生誕生)

苗代作り

現在の代地区には、田んぼは見あたりませんが、六十数年前までは、町並みを中に挟んで南北に田んぼが広がる、農村地帯でした。

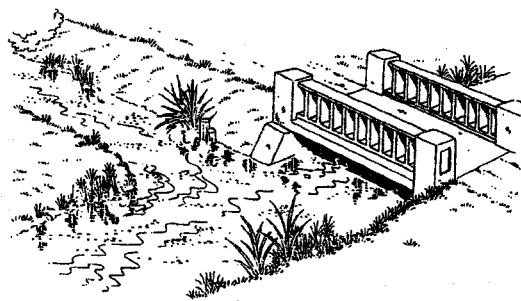
春の訪れとともに、田んぼのあちらこちらで田起こしがはじまり、塩釜神社の春祭り（四月二十五日）、その後には水苗代作り、それに種蒔きに家族総出で、まさに春の風物詩とも言うべきものでした。



蜆 (シジミ) 採り

砂押川の流水も寒さから開放され、素足で川に入るこの季節になると、念仏橋の上・下流では、蜆採りの人々の姿をみかけるようになりました。その蜆も昭和四十年頃から汚染水等により、次第に姿を消しました。

現在は下水道の整備により大分水質も改善されていますので、昔のような蜆の住める環境に戻ってもらいたいと願っております。



ボウリング大会を終えて

体育部長 熱海 五郎

大代地区コミュニティ主催ボウリング大会が去る二月二十七日（日）一兆パーフェクトボールにおいて開催し、熱戦の中にも楽しく大会を終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

結果は次のとおりです。

- 一 優勝 橋本 浩
- 二 準優勝 結城 一志
- 三 第三位 斉藤 勉

十七年度の行事にも、多数の方々のお加をいただき、コミュニケーションを図ってまいりたいと思います。

春の交通安全総ぐるみ運動

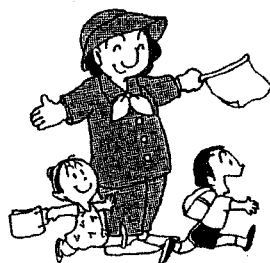
◎ 期 間 平成十七年四月六日（水）から四月十五日（金）

この運動は子供（特に新入学児童）と高齢者の交通事故防止を基本としながら次の四点を重点に行われます。

- ☆ 二輪車の安全利用の推進
 - ☆ シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
 - ☆ 飲酒運転等悪質、危険な運転根絶
 - ☆ 自転車のマナーアップ
- これからはお互いに注意しあつて地域から、家族の中から交通事故の加害者、被害者を出さないように、明るく住みよい街にしましょう。

多賀城市交通安全協会 東部支部長

春の交通安全運動



日本への帰路(No.三二)

大代南 後藤 清一

秋も深まり年内には日本に帰してもらえるものと思いきや、だだ四度目の冬がまもなくというのに、解放されそうな気配は全くなかった。

海に向こうが故郷と云うのに、体の衰えは甚だしく、最後の集結地ナホト力に辿り着いても作業は休みなく続く。

やはり働かざる者は喰うべからずだ。夜は民主運動の仕上げにその追い込みは熾烈なものであった。民主同盟のオランダの態度は呆れるばかりで、彼等の手による運動で痛めつけられ死んだ者も少なくない。日本人同士の密告による制裁も酷く逆らうことすらできず、煮えくる思いを胸に秘め、耐えるよりほかなかった。「間近い厳冬をもう一度越す体力が自分には残っているだろうか。」「たぶん皆も同じ思いだろう。ここに集結した我々は、既に半月は過ぎていた。こんな惨めな思いでひたすら船を待った。

同盟の奴等は、「船はいつくるか解らんぞ。日本は敗戦で全てが苦しく、お前達のような帰りは必要としないのだ。それで船もこないのだ。もし帰れたとしても敵前上陸のつもりで行け、米国の支配下の日本へだ。」こんな流言を高々とヤジる奴等をソ連の警備兵はウストラ笑いでうなずく。それで我々の帰還は打切りになったという。情報は忽ち広まり千秋の思いの期待は無慈

悲にも打ち砕かれた。

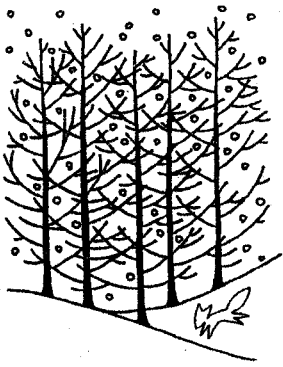
我々はあらゆる手段で痛めつけられ、友の死が増幅していった。これまで人間の死は数えきれない程見て来た。

晩秋のナホト力の空は澄み、久し振りに終戦の八月十五日を思い出す。あの日、牡丹江も抜ける様な青空だった。

死を覚悟で見たから、あんなにも美しく想えたのかも知れない。あの日、小隊長より自決用手榴弾を一発ずつ渡され、使用は各人の判断に任せられた。

皆の者は内地の親、肉親に宛てた遺書を書いた時の胸を痛めた感覚を思い出す。バラックに戻ると、寝台のあつちこつちで麻雀、パイをかき混ぜる音が賑やかだった。白樺の木で造られた細かい模様まで彫られ見事な出来栄である。

寝台の周りに輪ができ、故郷の正月の話も始まる。それぞれの故郷の自慢話に花が咲き、同じような話を飽きもせず語り、皆も真剣に聞いている。「何でもいいよ。俺腹一杯食べたいよ。」と言いつく者がいて、一瞬皆んな、シユンと静まりかえってしまった。



戦国の武将

大代西 藤田 遊子



『奥州の覇者伊達政宗』

東北一の大都会仙台市。政治、経済、産業、文化の中心をなす政令指定都市として、鋭意発展を続け、その濫觴は四百年の昔、藩祖伊達政宗の血と汗により築かれたものであった。

政宗は、幼少の頃から文武両道に優れ、野望は天下取りであったが、実弟を殺し、父も殺さざるを得ない異に落ち入り、特に秀吉によって奥羽、出羽の領地を半分削減されるなど、不運の連続であったが、富国強兵や支倉常長の遺教、徳川家との縁談など全ては天下取りの手段であった。しかし徳川幕府が、各藩が貿易や先端技術を自由に出来ないようにしたので、仙台平野の灌漑など農業安定路線を選択し、天下取りの野望は六十二萬石に終わった。戦いに明け戦いに暮れた戦国の武将政宗、従三位権中納言。諦め切れぬ野望を胸に瑞鳳殿に眠る。享年七十歳。『奥州を拓きし君が真心を永久に讃へむ青葉の杜に』

遊子

俳句

大代西 松浦 富雄

老の春炬燵を友の無聊かな
立春や玉子を立てて独り者
山茶花や影つくる葉の灯の明かり
窓の雪糞尿譚や葦平忌
お稲荷のお狐様に春兆す

笠神西 本郷 勝子

初湯治アロマテラピー心地よさ
新雪をつまんでみるとマシユマロの味
野仏を見付けて雪を払いのけ
湯煙が流れて飛んで去年今年
寒中やハボタン庭をしとやかに

短歌

大代西 小倉 紀美子

去年の秋咲きしコスモスのこぼれ実が
尺に充たぬに冬庭に咲く
どんな鳥ついでにみにしか柚子の実を
中味もあらず 葉ごもりに映ゆ

大代西 佐藤 あさよ

鶴岡は月山詣りの帰りみち
屋簷によりし思出のまち
予定日は三月とはなれ住む
孫の知らせに心待ちする